

令和6年度
学校関係者評価 報告書

学校法人 岡崎学園
大阪自動車整備専門学校

1. 目的

関係業界、卒業生、地域住民等の学校関係者から委員を選任し、令和5年度の学校業務について、学校が自ら行った自己点検・自己評価結果の報告及び改善方策についての評価を受けることを目的とする。

2. 評価項目

評価項目は次による。

- ・ 自己評価の結果の内容が適切かどうか
- ・ 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・ 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか
- ・ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

3. 評価要領

令和6年6月10日(月)に実施した学校関係者評価委員会において、自己点検・自己評価報告書の内容を報告し、それぞれの項目における意見聴取及び評価を受けた。評価委員からいただいた主な意見等について、それぞれの項目に記載する。

4. 出席状況

出席 計13名

【学校関係者委員】計6名

- ・ 矢内 昭秀 氏(大阪ダイハツ販売株式会社)
- ・ 車谷 知紀 氏(竹菱自動車販売株式会社)
- ・ 奥田 恵造 氏(関西大学 職員)
- ・ 三浦 哉子 氏(学びリンク株式会社)
- ・ 大矢 敬道 氏(黒田寺 副住職)
- ・ 佐々木 大介 氏(正定寺 住職)

【説明者】計7名 ※令和5年度の役職に基づき説明者を決定

- ・ 岡崎 泰道(学岡崎学園 理事長)
- ・ 太田 功二(東朋学園高等学校 前校長・東朋高等専修学校 校長)
- ・ 中田 博隆(大阪自動車整備専門学校 校長)
- ・ 永田 淳義(東朋学園高等学校 前教頭)
- ・ 船井 英伸(東朋高等専修学校 普通科 前教頭)
- ・ 山田 晃子(東朋高等専修学校 総合教育学科 教頭)
- ・ 勝間 祥子(学岡崎学園 法人本部 事務局)

欠席 計1名

【学校関係者委員】

- ・ 東本 秀雄 氏(町会長)

5. 自己点検・自己評価概要および評価委員の意見

(1)理念とミッション

- ・知識や技術はもちろんのこと、社会人基礎力の習得にも力を入れた教育が望ましい。教育機関であることを鑑み、学校は教員の指導能力向上にも力を入れていくべきである。

(2)アドミッションポリシー(入学者受け入れの方針)

- ・入学試験の際、面接等で今一度伝えておくことも必要であるとする。

(3)受験資格

- ・留学生の受け入れ方針及びその人数について、堅実であると理解できる。今後も確実な資格取得および学習管理を考えた上での受け入れを行ってほしいと考える。

(4)入学者選抜の方法

- ・入学試験に関して、適切に実施されていると理解できる。
今後も維持に努めていただきたい。

(5)入学者募集の方法

- ・近年、若者の自動車離れが著しいと聞く。ただ、昨今の実情からして、自動車の使用・利用がある以上、整備士の存在は欠かせないものであることから厳しい現状ではありつつも人材育成に努めていただきたい。

各メーカーの方々との連携が大変好評であると聞いている。引き続き実施し、効果的な広報活動を目指して頑張ってください。

(6)カリキュラムポリシー

- ・職業教育を行う機関として、現時点のような総合的な教育を引き続き実施してもらいたい。

(7)カリキュラムの内容

- ・毎年の状況に合わせてカリキュラムを組む作業には、ご苦労があることと推察される。専門学校での学びは本格的な実習にあると思われるので、それを最大限

に生かすよう工夫されていることが理解できる。

また各メーカーのセミナーが数多く開催されており、実際の担当者等の話がきけることは学生にとってもよい影響があるかと思われる。

(8) 審査体制・修了要件

・昨年の状況に引き続き、退学者が増えている印象を受ける。ある一定数は仕方のないことかもしれないが、引き続きの対策をお願いしたい。技術習得が一番の目的であるのはもちろんであるが、『教育』という観点からモチベーションを保てるような声かけや補講、また行事等を検討してもらいたい。

(9) 学生の支援

・経済的支援に関しては、入学時の多種にわたる学校独自の減免制度や分納対応など、経済的負担の軽減に対して、学校としてできる限りの努力をされていることは承知している。

・各種資格試験の受験者数及び合格率が昨年度と比べると全体的に下がっている。資格取得への意欲を高める取り組みに関しても検討していただきたい。

・専門学校の強みの一つはやはり就職への指導がしっかりしていることであると思われる。引き続き、きめ細やかなサポートを実施していけるよう頑張っていたきたい。

(10) 教員の確保

・実際に現場で活躍され、また各メーカーの車に対応できる方々が教員であるということで、その指導に説得力がある。ただ、教員となるという心構えは必要になるため、新しく教員として採用するにあたり研修等の企画は必要ではないか。教員の年齢層については、無理に若い教員を必要とするよりも、何か違う観点からそれをカバーできるか検討してみてもどうか。

(11) 学習環境

・昨年は校舎建て替えのための移転に関して、さまざまなご苦勞はあったかと思うが、大きな混乱もなく運営できていることに安堵した。令和8年度にはまた新たな校舎にてスタートする訳であるが、そこまでがひと段落となるので引き続き頑張っていたきたい。

(12) 財務

・一昨年度以降、校舎の建替えに伴う借入を行ったこともあり、今までにも増して財務管理が必要になってくる。この後の数年間は、教育の質を下げずにしっかり

とした運営を行っていくことを一番に考えていく必要がある。

(13) 法令等の遵守

・法令等の遵守は専修学校として運営するうえで避けられないものであるので、引き続き適正な運営ができるよう、努めていただきたい。

(14) 自己点検・自己評価、学校関係者評価、外部評価

・自己点検・自己評価において、アンケートの結果から概ね適切に実施されていると思われる。評価項目も教育内容から運営において網羅されており、適切だと考える。こういった外部の意見はどこまで参考になるか分からない部分はあるが、より良い教育活動を行うための参考になれば幸いである。

・自己点検・自己評価により課題となった事項は、全教職員がお互いの立場から検討し、その結果を持ち寄って学校としてどうするのが適切なのかを調整いただき、より健全な学校運営に努めていただきたい。